
ねえ、知ってる？

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねえ、知ってる？

【Nコード】

N6769J

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

私の名前は秘密だけど…。

私はいつも通り制服を駅のトイレで着替える。

だあれ、もうケータイに掛けてくるのは。

「はい、純です」

電話の相手はここ2カ月、ずっと私を指名してくるサラリーマンのおじさん。嫌いではない。だって、結構本を読む人だから。だけど、ことう重なってくると、むっつりスケベーだったのかつて感じ。

難しい話を聞くのは好き、でも、ことうも好きとなると、もう尊敬はできない。相手はしてあげるけど何だかつまんない。

着替えたところで、私の歳が変わるわけでないのに。でも、制服だとホテルに入れない。この1カ月の収入は父の月給を超えてるはず。母のパートタイマーは私の稼ぎの3分の1。安いよ。この世はセックス産業。元気がないなんて嘘よ。みんな元気りんりん。金だつてあるじゃん。はあ、それでもおかしいね、疲れたって帰る前は私と遊んでるって。私はなんでこんな世界に足を踏み入れたって？ そんなこといいじゃん。どうだって。

「はい、2008どうぞ」

「どうも」

お金を払っているのは例のお得意さん。私は髪も染めてないし、余計に純な娘に見えるんだって。そう、すごい無口で通ってるの。その代わりに、ベッドで豹変してあげるから、そのギャップがいいらしいの。私の名前は純っていうの。でも本当の名前は秘密。誰にも言わない。

部屋に入ると、おじさんはいつも通り本を取り出して、読み始める。

「この本は面白いんだよ。ノンフィクションだよ」

私はそうとつぶやくだけ。そしてあとは頷きながら、首をかしげで聞いている。それで終わると思うでしょう。違うの。残りの25

分で急に抱きしめてくるの。まあ、料金は払ったんだし、私はそうかあ、やっぱりと思うだけ。25分に掛ける力はすごいもんよ。私も相手をしてあげるし。

でも、その日は違ったの。25分過ぎても挑戦してくるから、時間が気になって

「どうしたの」

って声をかけたら、

「くびになった！ 25年も勤めたのに」

「えっ、明日からどうするの？」

「そんなこと気にするな」

そう言われても気になるよ。でも好きにさせてあげる。頭をなでていると、突然泣き出したおじさん。

「退職金も考えていたより半分しかない。まだ、家のローンも20年あるんだ。子供も大学生と高校生だし、どうしたらいいんだろう」

私のように働いたらと言いたかった。でも黙ってる。

「延長は高いよ。いいの？」

「ああ、もう今日だけだから」

「そうなの。いいものあげる」

私はそう言っつて、今日描いた絵を切りとった。

「しおりにして」

渡した紙に書いていたのは、校庭の寒そうな桜の木。葉も花もちろんない。でも、冬の木立は素敵よ。時々描くの。

「ありがとう。うまいな」

「そう？」

そう言っつと、また私に覆いかぶさって来た。今日はまあいいわ。

私は1時間後、静かに部屋を出た。ケータイは半分に折って捨てた。長引く付き合いは嫌。

「さよなら。いいこともあるかもよ」

私は学級委員の佐伯真澄。

彼は知らない。娘と私が同級生だっというのを。娘は成績は悪いし、性格も悪い。掃除もしないし、教室からはいつもエスケープする。

「ねえ、真澄。この風紀委員の仕事やっておいてー。パパが食事に連れて行ってくれるって言っし」

「わかった。なんかいいことあったの？」

「うん、何だか今日は御馳走したいって。うざいけど、まあ小遣いくれるし」

「いいわよ。楽しんできて」

馬鹿ね、パパはもう仕事ないのよ。最後の晚餐よ。味わってきて。

校庭の桜の木、きれいだわー。

何もつけてない無防備の桜。寒そうね。

私、明日答辞を読みます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6769j/>

ねえ、知ってる？

2011年1月8日20時31分発行